

「平成29年度 第1回大月みらい協議会」 会 議 概 要

日 時 平成29年5月26日（金）午後7時から午後8時30分まで
場 所 大月市民会館 4階視聴覚室
出席者 石井市長 ・ 石井副市長 ・ 小泉教育長 ・ 委員18名（3名欠席）
小笠原則雄、長田弘、小俣理美、梶原崇照、小池幹彦、佐々木啓吉、佐藤茂幸、
志村淳、志村賢二、庄司有紀、白川太、中島啓介、仁科美芳、福嶋尚美、
藤井真弓、三木範之、武者稚枝子、渡辺勝
【事務局】 兼子総務部長、石井企画財政課長、井上地域活性化担当リーダー、榎本、堀内

1. 委嘱状の交付

2. 石井市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、委員の皆様にはご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。特にこの時間、本来であれば、お寛ぎの時間であろうと思いますが、ご出席をいただきまして、本当に感謝を申し上げます。ありがとうございます。また、日頃から市政運営に対しまして、大変なご理解とご協力をいただくとともに、今回は、大月みらい協議会の委員へのご快諾をいただき、深く感謝申し上げます。

本市の人口問題、そして地域活性化につきまして、市民などの幅広い視野からの意見を求め、対策について検討するため、平成27年1月に「大月市人口問題・地域活性化を考える市民会議」、愛称といたしまして「大月みらい協議会」という名前でございますが、20名の委員をお願いをいたしまして、これまで、様々な、多くの提言をいただき「大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定や効果検証などに携わっていただきました。市の人口問題及び地域活性化は、行政だけで解決できる問題ではなく、企業や市民の皆様とともに議論を進めて行く必要があると考えております。

昨年度をもちまして1期目の委員の任期が満了となり、今年度から2期目のスタートを切ることとなりました。16名の委員の皆様方には再任という形で引き続きお願いを申し上げます。1期目は大変ご労苦いただいたわけではありますが、2期目につきましても、引き続きよろしくお願いいいたします。また、今年度より新たに5名の委員の皆様方を迎えまして、未来の大月市が明るく希望が持てる「市民目線」でのご意見をお願い申し上げまして、誠に簡単ではありますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。今日は大変ご苦勞様でございます。よろしくお願いいいたします。

3. 委員紹介

4. 職員紹介

5. 議長及び副議長選任

事務局案があれば提案してほしいとの意見があり、事務局案として議長を志村淳委員に、副議長を佐藤茂幸委員にお願いしたいと提案したところ、拍手をもって承認された。その後、就任にあたり議長・副議長からあいさつがあった。

【志村議長あいさつ】

このメンバーの中では年齢が一番上でございます。寿命が短い中でも、年寄りが果たす役割があるのかなと思っております。人には、理を大切にすることもありますが、理屈ではないよという方もいます。私は、両方混在しています。いつも皆さんに迷惑をかけるのですが、このように皆さんが集まると、私の一番大事な役割は、空気を読むことなのかなと思っております。それが私の大月みらい協議会の仕事だと思い、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

【佐藤副議長あいさつ】

あらためまして、大月短期大学の佐藤です。1期目に引き続き副議長になりました。それがいいのか、どうなのかという部分はありますが、何とか頑張っていきたいと思っております。1期目は、実は皆勤賞でした。今回も皆勤賞を目指して頑張っていきたいと思っております。議長を支える形で尽力していきたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

6. 議題

(1) 今後の大月みらい協議会の進め方について

●志村議長より、初めて参加する委員がいることから、これまでの会議の経過について、説明があった。

【志村議長】

今日の会議に至るまでに、前回3月の最後の会議において、石井市長から宿題を仰せつかりました。新年度から、「教育」を柱とする大月のまちづくりについて、考えて提案をいただけないかという話がありました。本日は、教育ということをベースにしながら、皆さんとお話をしていきたいと考えています。そのような中で、今日お越しいただいている石井市長さんから、主旨についてのご説明をお願いしたいと思います。また、小泉教育長さんもいらっしゃいますので、小泉教育長さんには「ふるさと教育」について、大月市が取り組んでいる現状、あるいはその中身についてご説明をお願いしたいと思います。それでは、まずは石井市長さん、よろしくお願ひいたします。

【石井市長】

早速ご指名いただきましたが、今日のメンバーの皆様方にはご出席いただき感謝申し上げます。これだけのメンバーの方々が、いろいろなお考えをそれぞれ出し合って、大月の将来を考えていただくということについて、皆様方を選ばせていただいて良かったなど今あらためて感じさせていただきました。年齢も30歳から70歳までの間の、世代の違った人たちが集まっていたということ、それから、地域も分散して出席していただいていること、また職業もいろいろな職業の方がいらっしゃるということで、そのようなことを基本に考えていただきながら、大月のこれから最も目指すべき方向といたしますと、「教育」と「医療」であろうと思います。そしてまた、何よりも自然というものの素晴らしさを、いかに我々が活性化に結び付けていくかということが、将来に向けての非常に大きなテーマであり、その中であって、まずは「教育」であろうと私は考えました。

「教育」にはいろいろな捉え方があると思います。基本的には学校教育というものがあり、オギャーと生まれて、3歳から18歳の高等学校教育までの一貫した流れがある中で、この間の教育は非常に大切なものであると考えました。この中で、大月の「ふるさと教育」というものが如何なるものかということは、これまでいろいろな場面でお話しをさせていただいて参りましたが、具体的に、私の考えを述べさせていただきたいと思います。

まず、将来の大月市を支える子ども達にどのような教育が必要なのか。そのようなことを考えたときに、一番重要で、最も大事なことは何か。これは、大人が誇りを持って活躍し、そして大月市に住んで、暮らして、良かったなど感じ、その姿を見て愛着と誇りが醸成される、そのような感性を持った人間を育てること、育ててほしいと思うものであります。

人間は生涯学ぶ生涯学習、すなわち社会教育により進化し続けることが出来ます。そして、人間としての生きがいを感じる事が出来ると考えました。子ども達にいろいろな経験や体験をさせて、大月市が育てた人材だと自信を持って、また、子育ては大月市だと言われるような教育を目指すのが、ふるさと教育だろうと思います。

その教育の最も大切な時期は、先ほどもお話ししましたが、3歳から18歳、あるいは大学教育の22歳までの教育が、子どもの将来にとって大変大きな影響を受ける大切な期間であろうと思います。特に大月市は、この豊かな自然環境があります。愛情あふれる多くの人々の支えや指導により、心身共に強靱な人づくりによる個性豊かな人材を世に送り出すことが、真の大月版ふるさと教育だろうと考えました。このような考えを基に、皆さんにご支援ご協力をお願いするものであります。大月市でなければ、大月市民でなければ出来ない、きめ細やかな教育を目指していこうというのが私の考えであります。

特に、具体的に申しますと、自分達が子どもの頃に持っていた夢や遊び、親や兄弟姉妹との接し方、家庭での役割。また、子どもの頃の夢と現実との違いとその変化に対する思い。自分の仕事や人との関わりなどの体験により、得意なところはどんなところが発見できたのか。それから、今の自分に自信が持てたのか。大月市に生まれ育って良かったところはどんなところか。体験した仕事や人生の心得や信念。人と人との繋がりやその必要性、大切さ。

学校の勉強で大人になって役に立ったこと。学習科目で得意、不得意の勉強の進め方。学校、地域、家庭における諸問題の分析とその対策。具体的に、そのようなことを議論していただくのかなと考えたところでもあります。

このように、自分達がこれまでに経験したことや体験したことを、子ども達に伝えることによって、子ども達が、自分の良さや親や兄弟の姿を見ながら、自分はどのような位置にいて、今後どのような生き方をしていけばいいのかということが発見できればということが、私の考えるふるさと教育であります。

このようなことをテーマにさせていただいて、これから小泉教育長が、ふるさと教育の現状とこれからについて詳細なお話があるかと思いますが、私は教育の重要さというものがそういうところにあるのかなと考えさせていただきました。皆様方には、いろいろな思いやお考えがあるかと思います。私の考えと、うまくマッチするかどうかわかりませんが、そのようなことを基本に考えていただきながら、大月のふるさと教育について、皆様方がどのような部分でどのような役割を果たしていくのかということも考えながら、学校教育と社会教育との繋がり、連携というものが、これから大月市の将来を担う子ども達にとってプラスになるような流れを作っていただければと思った次第であります。

今日お集まりの皆様方は、いろいろな職業を持たれているかと思います。まず基本となることは、ここに住んでいる市民の底力と言いますか、いろいろな知識や体験されたことを、子ども達にどのようにして伝えていくのか。そのようなことを基本に考えていただいて議論していただきたいと思っております。私からは、このようなお話しをさせていただきまして、一つの流れになっていければと良いと思っております。よろしくお願いいたします。

【小泉教育長】

小泉です。よろしくお願いいたします。私からは、ふるさと教育の現状と課題、具体的な内容についてお話しをさせていただきます。ふるさと教育ですが、基本方針につきましては先ほど市長の方からお話しがありましたが、地域ぐるみで子ども達を育てていきたいと思います。それから、将来の大月市を支えるような子ども達を育てていきたいと思います。ふるさとへの愛着と誇りを持った子ども達を育てていきたいと思います。過日の大月みらい協議会において、石井市長が、暮らしやすい街、住んでみたい街、その先にあるのは子ども達の笑顔だという話がありましたが、子ども達の笑顔を作ることが出来るような教育を、皆で子ども達を見守り、育てていきたいと思います。目指すべき方向だと思います。ざっくり言うと、大月市に生まれてよかった。大月市で育ててよかった。大月市で学んでよかった。大月市に住んでよかった。このようなことを地域の皆さんと共有できれば大変うれしいことだなと思います。

具体的に今学校ではどんなことをしているのかということでございますが、まずは教育資源の活用を図っています。地域には様々な歴史、文化、産業、人材など、たくさんの教育資源があります。できるだけたくさんそれらの資源を活用して、子ども達が学ぶ機会として、

具体的には体験したり、実際にお話を聞くことなどを展開しています。

次に大事にしていることは、地域と家庭との連携です。教育の場所は学校だけとは限りません。地域も家庭も子ども達を育てる場所でありますし、逆に地域、家庭で子ども達を育てながら、地域の方あるいは家族の皆さんが、子ども達の成長と共に自分たちも成長するということもあるかと思えます。

それから、幼保小中高と連携をしています。現在、都留高校と様々な形で連携して活動してくださっています。ここでの連携とは、幼稚園、保育園、保育所から小学校に入学する際の「小1ギャップ」、また、小学校から中学校に入学する際の「中1ギャップ」について、不適合を起こさないように、教職員の交流や情報交換ばかりではなく、子ども達同士の交流を進めているところです。例えば、中学校の生徒会の子ども達は、これから入って来る小学校6年生のところへ行って生活の様子を伝えています。また、生徒会は、そこで出て来た6年生からの質問を持ち帰って、もう一度小学校を訪れて、その質問に丁寧に答えるという取り組みを行っています。6年生の中学入学前の不安を解消したり、実際に部活や授業に参加、体験するという事も行っています。高校の方では、ブラスバンド、陸上、野球等の部活動の合同練習を今始めています。また、小学校に都留高校の水泳部が訪れ、高校生が子ども達に水泳を教える水泳教室を行っているところです。さらに、幼稚園では小学校との交流を行っています。猿橋小学校の先生、猿橋幼稚園の先生方と交流する中で、猿橋幼稚園では、茶話会を行っております。保護者の皆さんが仲良くなるのがとても大切だということです。今学校では、学年部会というものがあるのですが、保護者の方が相互に仲良くなるというか、本音を出し合うような時間がとれない中で、猿橋小学校では今年から幼稚園の方で行っている学級懇談会を取り入れています。今、そのようなところで幼保小との連携が表れているかと思えます。

このように、様々な取り組みを行っていますが、一番大切にしていることは「人とのふれあい」です。例えば、地域にある教育資源を使って勉強をした場合、そのときに、子ども達が人とふれあうことこそ、大きな目的であります。子ども達の間関係の構築や、人間の幅を広げる大切な体験になると思っております。

次に、学校の様子をご紹介させていただきたいと思えます。猿橋小学校では、老人ホームへ訪問し、お年寄りとの交流を行っています。また、地域の方と、足踏み脱穀体験、昔の遊び体験、田植え体験を行い、地域の方のボランティアが学校に来て、自分が子ども達に伝えたい本を選んで読み聞かせを行っています。この読み聞かせは、猿橋小学校に限らず全ての学校で行われています。初狩小学校では、地域の方が校庭にベンチを設置していただいたり、夜、保護者の方と、定期的に子育てについて茶話会をしています。また、笹子小学校からずっと行われていた活動を初狩小学校が継承しています。地域の伝統芸能である笹子追分人形を見たり、聞いたり、触らせていただいたりしています。それから、地域の方から教えていただきながら、自分達で、藁から草鞋を作り、それを履いて笹子峠越えをしています。大月東小学校では、高校生との交流を行っています。水泳部の高校生が、夏休み期間中に、子ど

も達に水泳を教えてくれていただいています。また、大月西小学校の行事であった梅もぎについては、大月東小学校に受け継がれています。時間もなくなってきましたので、全ての学校を紹介できませんが、このように各学校では、地域の皆様から様々なことを教えていただいております、たくさんの方を子ども達は学んでいます。

ふるさと教育を考えていますと、ふるさと教育そのものは、昔は地域に根付いていたものだと思います。原点は地域に元々あって、お祭りや伝統行事、地区活動の中で子ども達はたくさんの方を地域の方から学んでいました。また、学び手は子どもとは限らずに、地域の皆さんが横に繋がりながら、自分たちも相互に学び合っていました。それが青年団にもありました。今はそのようなものが段々なくなっていって、ふるさと教育を行う場所が学校になってきています。本当は、地域にふるさと教育の原点があったということ、もう一度地域の皆さんに考えていただく必要があると思います。そのような意味で、ふるさと教育は、地域再生の鍵になるのではないかなと考えました。

また、どんな地域を次世代に残す必要があるのかということですが、これは子ども達のことではなくて、私たち大人の問題、大人の課題、地域の課題として考える必要があり、再認識していただくことが大切だと思います。地域のふるさと教育の担い手は地域住民であるということ、大人が考えていかなければならないと思います。

次に、教育委員会では、昨年度から今年にかけて、新たに始めた事業を簡単にご説明いたします。1点目として、人とのふれあいがふるさと教育の根幹の部分であることを先ほど話しをさせていただきましたが、「大月仕事塾」という事業を昨年度から始めました。中学校におけるキャリア教育、職場体験学習であります。その中で、子ども達がやってみたくて、体験してみたい仕事がない場合もありまして、教育委員会で様々な事業所に電話させていただいて職業体験の場所を広めました。その一覧表を中学校へ提供し、中学校ではその一覧表を活用して、子ども達が職場へ行って体験学習を行っております。その体験を通じて子ども達の反応はもちろんですが、それ以上に、受け入れた事業所さんから、「将来、弊社の従業員にしたい」という話や、「子ども達が来て、職場が明るくなり活気が出て来た」、「元気の挨拶は、弊社の従業員の見本となった」という話、また逆に、「うちのような小さなお店に来てくれたことが本当にうれしい」という話もありました。事業所の方には、ご迷惑をおかけすることが多々あったかと思いますが、子ども達を受け入れていただいたことで、子ども達から元気もらった場面もあったのではないかと思います。

2点目の「大月楽習塾」は、家で中々勉強に向き合えない子ども達のために、教員OBがボランティアで、子どもたちの放課後を利用して学習塾を行うものです。市内の児童・生徒は現在1,400人程います。その内、1割の子どもたちが中々勉強に向き合えない状況や、様々な事情で塾等にも行けない状況があり、勉強の楽しさや勉強が解る喜びを味わうことができるよということ、今年6月からスタートすることになりました。

3点目の「大月家庭塾」では、学校と家庭が連携する中で、子ども達の生活を整えていきたいと思いますという取り組みです。この取り組みを子どもたちに根付かせるため、小学校と中学

校が連携して取り組んでいます。

次に社会教育の関係の取り組みを紹介いたします。まず市立図書館では、様々な取り組みを行っております。今年度の取り組みとしましては、図書館長や朗読ボランティアの方が学校へ行って昼休みを利用して大型紙芝居を行いましょうということや、敬老の日に合わせて子ども達が祖父や祖母に読んであげたい本を図書館に掲示しようということや、お母さん方がこれから母親になる方にこんな本をお勧めしたいという紹介コーナーを作ろうということを行うことで、市民のつながりをつくる取り組みを行っております。郷土資料館では、市民とのふれあいを目的とした取り組みを行っておりますが、小中学生を除いた中で、市内の利用者が大変少ない状況があり、このあたりも今後考えていかなければいけません。また、市民会館では、市民が集い楽しむ取り組みを行っております。

最後に、大月市は自然豊かな所だということを皆さんがおっしゃっていますが、市民として自然豊かな環境にどのように関わっているのかということ問い返してみますと、私が子どもの頃は川で遊んでいましたが、今は川で泳ぐという気持ちになれません。大月は多くの沢や川がありますが、自分のところを綺麗にしても上流からごみが流れて来てしまつては、川は綺麗になりません。例えば、大月市は自然が豊かなまちだと言ったときに、その自然に対して地域としてどのようなことが出来るのか。大人がどんな事が出来るのか、あるいはするのかということ、皆さんと一緒に考えていただいて、それを見た子ども達が、自然を大切にすることというのはこういうことなんだということ、そういった気付きの中で作っていくことも大人の仕事ではないかなと思います。

今後の課題としましては、地域教育の担い手どのようにして育てていけばよいのか。地域教育の核はどのように育てていけばよいのかということを考えていかなければいけないと思っております。10分の予定が15分となってしまいました。申し訳ありません。以上でございます。

●ここからの進行が、志村議長から佐藤副議長に代わることとなった。

【佐藤副議長】

志村議長からのご指名いただきましたので、ここからは私が進行させていただきます。よろしくお願ひします。先ほど、石井市長様、小泉教育長様から、それぞれ大月の教育についてお話がありました。石井市長様からは全体的なお話、小泉教育長様からは具体的なふるさと教育の取り組み内容についてお話をいただきました。その話を受けまして、今後みらい協議会では、ふるさと教育をどのように考えていって、市の方に場合によっては提案していくということになっていきます。これについては、次回、2回目以降の会議で踏み込んでいきたいと考えております。その前に、折角お二人が来ておりますので、大月市が考えているふるさと教育についてご質問やご意見をいただき、私たちが議論を進めるに当たっての基本的な考え方の共有化を図っていきたく思いますので、ここからは質疑応答の時間とさせていただきます。今日はまとめるということではありませんので、何でも思うことがあればご質

問等をお願いします。いかがでしょうか。

●委員から、以下の内容の意見等があり、石井市長及び小泉教育長と意見交換を行った。

<情報発信>

- ・教育方針、取り組みなど大月の魅力を積極的に情報発信していくことが必要だ。
- ・大月では当たり前でも、都会の人にはすごいと感じるところの認識がある。

<地域で子どもを育てる>

- ・いろいろな生き方（可能性）があるが、それを教えることが大切だ。
- ・人と人との繋がりが重要である。（子どもを通して大人も元気になる）
- ・型にはめない教育が大切である。（世界で通用するような人材育成）

<学力向上>

- ・学力向上の一助となるような策を講じる必要がある。
- ・子ども一人一人の長所を伸ばすことが必要である。

●その後、志村議長より、今後の進め方とか、今後どのような論点でやっていくのかということについて、総括的な意見及び提案があった。

【志村議長】

ふるさと教育について、いろいろなご意見がありました。いろいろな切り口がありますが、一つだけ紹介させてください。

今年大月市役所に新入社員として入った職員がいます、その中の2名は市外の出身で、大月短期大学を卒業して、編入で4年生大学に入ったそうです。その4年生大学を卒業して、就職試験を受けて大月市の職員になったそうです。今の若い方は一極集中の東京へ就職を望んでいるのかなと思いましたが、自分のふるさとや実家を捨て、東京を捨て、大月市役所に就職しました。これはまさしく、大月のふるさと教育の成功事例なのではないかという風にも思います。本気にならなければ、大月へ就職しません。だから私は、2名掛ける100、200人の効果、そのような価値のある2名だと思っております。私たちはこれから、みらい協議会を進めるに当たっては、このような真剣に大月を愛する青年の皆さんのエネルギーを胸の中に吸い込んでこの大月を考えていきたい。これも大月みらい協議会の一つの役目かなと今思ったばかりでございます。

それから、先ほど、市長さんのお話や教育長さんのお話をいただきました。誠にありがとうございます。しっかりと受け止めたいと思います。なおかつ、いくつかの課題が出ております。学力が大事、情操教育も大事ということもありましたので、これをどういう形で進めていったらいいのか、今日ではなくて、後の課題とさせていただければと思います。

そこで、この先のことですが、これからの進め方でございます。これについては、一応ここで申し上げておかないといけないと思います。

まず、これからの進め方については、本来は皆さんの考え方や要望をお聞きした上で進め

方を考えていくことが一番良いかと思いますが、今ここで皆さんどうですかとお尋ねしても、無理かと思いますが。そこで、決してトップダウンではありませんが、石井市長さんの宿題に対して、どうこなしていくかの現時点での進め方の目安みたいなものを今日持ち帰っていたら良いかなと私は思っています。

目安として、過去2年間、私たちはこのみらい協議会で議論してきました。その積み重ねをまず大事にしたい。その中に、まず1つ目として、数々の提言を市に申し上げてきました。教育のまちづくりという提言についてもかなりありました。この提言を活かして参りたいと考えております。

2つ目は、小さな拠点という言葉がありました。皆さん思い出してください。この言葉が、過去2年間の中で、大きなキーワードになったと私は捉えています。小さな拠点がいっぱい出来ていく。それが大きくなって大月市の活性化に繋がっていくという捉え方なのかな、一つの方法なのかなと思っております。

3つ目は、出来ることから始めようという意見がたくさん出ております。簡単な言葉ですが、これも大事な要素です。この3つが、今まで出された皆さんの意見の、共通項目としての言葉かなと思っております。

そこで、この先の4つ目を申し上げたいと思います。あくまでも提案でございます。皆さんに思い出していただきたいのですが、実行性という言葉が、この2年間でかなり出てきました。絵に描いた餅を本当にやるのかやらないのかという言葉です。ここを宿題の中でどのようにこなしていくか、どのように捉えていくかということです。これからの宿題を実行するために、誰をターゲットにして、何をどのようにやっていくのか。例えば小さな拠点を動かしていくためには、どんな仕掛けをするのか。その仕掛けまでも皆で考えようということ、もしかしたら考えても良いのではないかということをご提案申し上げたいと思います。これはあくまでも皆さんへのご提案でございます。これについてのご意見をいただきたいと思っております。

【佐藤副議長】

志村議長様、ありがとうございます。今後の方針のようなものをお示しいただきました。これはもちろん決定ということではございません。2回目以降から具体的にしていくということでございます。「2年間の振り返り」、「小さな拠点」、「出来ることから始めよう」という3つのキーワードをお示しいただきましたが、少なくとも議論だけでは終わらないという風にしていきたいと思っておりますので、そこだけをご承知いただければと思います。議論自体は我々の勉強になりますが、何か提案するとか、場合によっては何か行うとかということろまで、みらい協議会で明確にしていきたいと思っております。

(2) その他

●委員から、今後の進め方について、ターゲットを絞って何か具体的に目標なりゴール等を定めたらどうかという意見があり、今後の課題として検討することとなった。

●志村議長から、これから会議を進めるに当たって、3つの提案があり承認された。

①提言書の扱いに伴う生きがい創生委員会への傍聴

②オブザーバーの積極的な活用

③みらい協議会打合せへの委員の参画

●次回会議日程等

次回会議の日程ですが、概ねの予定としましては、7月上旬を予定。

また、会議の会場として、これまで市民会館を会場として利用してきましたが、大月短期大学の新校舎が完成したことに伴い、今後、短大の会議室も会場として利用していくこととした。